

石田梅岩講舎跡地で、再び講義復活！

## せきもんしんがく 「石門心学を知ろう！」

石田梅岩って誰？ 知らない方でも「おもてなし」「もったいない」「思いやり」などの言葉は、今世界の人々にも望まれる言葉であることはご存知でしょう。

290年前の江戸中期この車屋町御池上る東側の地で、梅岩先生は石門心学の祖として初めて一般町民に「心の学び」を講義しました。「三つの徳の実践」の教えは日本人の心として今も受け継がれています。



令和元年6月19日石碑除幕式 門川大作京都市長ご臨席（静鉄ホテルプレジオ前）

今回ゆかりあるこの地に石碑が建ち、門川大作京都市長は地域で継承していくこのような取り組みは「京都の誇り」と除幕式で語られました。地域の住民として先生の教えを再び学び、特に子どもさんに対する教えは、いじめや不登校の改善に役立つものと思います。

※お子様同伴も歓迎いたします。

日時 11月11日（月） 18:30～20:00 （毎月第2月曜日）

場所 静鉄ホテルプレジオ 京都烏丸御池一階（車屋町御池上る）

講師 心学修正舎 理事 長野 享司

参加費 無料

その他 先着40名様（駐輪場あります）

★印が会場です→



# 石田梅岩の教えとは…

「先哲・石田梅岩の世界」 清水正博著 より抜粋

## ①父の養育は正道を貫く

【意識】先生のお人柄はまっすぐで、素質は世の中の人と較べて秀でたものがありました。お父さんの育て方も正しかったのです。

【原文】先生のひととなり正道にして材もまた世の常に越えたり。  
父の養育もまた正しかりし。(事蹟)

## 他家の栗を拾い父に叱られる

【付言】子供の頃、自分の家の山と思って拾ってきた栗を、そこは他人の山だと父に厳しく叱られ、昼食の途中にも関わらず、泣きながら返しにいったとの逸話が残されています。先生は「そのときは悲しく思えたが、後に父の厳しい教えに感謝した」と述べています。この体験は自己の物と他者の物を明確に区別する注意力と正直な行いの大切さを、先生に教えてくれました。(後略)

## ②夏は日陰を譲り冬は日当たりを譲る

【意識】梅岩先生は道を行き来するのに、夏は日陰を人に譲り、自分は日当たりを歩き、冬は日当たりを人に譲り、自分は日陰を歩きました。

【原文】先生道を往来したまうに、夏は陰を人に譲り、みずからは日あたりをあるき、冬は日あたりを人に譲り、自らは陰を歩行したまえり。(事蹟)

## 講師ごあいさつ

このたび石門心学発祥の地であるご当地に於いて、再び心学の灯がともりました。しかも 290 年目の節目の年、ありがたいことでもあります。ご近所にお住いの方々はこの場所が心学の「聖地」であることをぜひ知っていただき、その妙味を味わっていただきたいと思えます。



心学修正舎 理事 長野 享司

静鉄ホテルプレジオ烏丸御池 は石門心学の活動を応援します。